



# 西念寺だより 長月号

令和3年9月1日

〒610-0331 京田辺市田辺北里29番地

TEL 0774-62-1027, 63-2912 FAX 0774-26-9683



## 秋のお彼岸が近づいて参りました

時折激しく降る雨や残暑に、爽やかな秋が来たという実感は乏しいですが、そこかしこに秋の風情が漂う今日この頃、壇信徒の皆様方にはいかがお過ごしでしょうか。

平素は何かと御協力賜り誠にありがとうございます。

さて、依然として新型コロナ感染拡大の最中にあり、多くのことがコロナとの関連性の中で論じられ、是非の判断や優先順位付けが当たり前ようになってしまいました。今も感染者は増え続け、京田辺市でも既に800人を大きく上回っており、ワクチン接種が進んでも感染の不安は払拭出来ず、長引く自粛生活によって人と人との交流は少なく、不要不急と言われるとなかなか外出もままならない状況となっています。

しかしながら、長い歴史の中で感染症は今に始まったことではなく、今回のコロナのような感染は私たちには初めての試練ですが、これまでもコレラや赤痢、麻疹など、度々このような危機に遭遇しています。

我が国では奈良時代に天然痘が流行り、多くの人々が亡くなる中、聖武天皇は国の安寧と幸福を願って東大寺や大仏を建立されたように、当時は疫病は何らかの怨霊に取り憑かれた祟りだと思われていました。



感染症拡大防止にご協力ください

また、京都のJR二条駅にほど近い神泉苑は霊魂を鎮めるために造られたものですし、祇園祭も本来は疫病退散のためのお祭でした。こうした一つ一つのしきたりが生まれた根本は、疫病から起こる恐怖心です。

この恐怖心は一方で、憎悪を生んだり偏見を生じさせます。わが国ではこれまで地震や台風、豪雨などの自然災害に見舞われた際、被害を受けた人々に対して復興を祈り、心を寄せることが多かったにもかかわらず、今回のコロナ禍においては、感染者やその家族に対して誹謗中傷が絶えず、メディアからは絶え間なく感染の状況が報じられ、予測のつかない脅威に曝されることが常態化しています。バッシングの根底には、長引く状況下での疲弊とともに不安と恐怖心があるのではないのでしょうか。

お釈迦さまは、この世の中を娑婆世界＝忍土と示されました。忍という字は心の上に刃が乗っています。辛いことを我慢し、しなやかで強い心を意味する字です。

仏教に「忍の徳たるや持戒苦行の善く及ばざるところなり」という教えがあります。まずは平常心が大切です。加熱する報道や先行きの見えなさに、不安になるのは自然な反応なのだを受け止め、今自分が出来ることを一生懸命行う事が大切です。その一つの方法として、しっかりとした感染対策と共に、法然上人の示された「平生のお念佛」の実践を積みながら、心穏やかな毎日をお過ごしいただければいかがでしょうか。

間もなくお彼岸を迎えます。お寺やお墓にお参りして御先祖様の御供養をするとともに、今生かされている事に感謝し、充実した毎日をお送りいただければと思います。

**裏面に続く**



## 【お彼岸の日程について】

下記の日程で、秋の彼岸会を厳修いたします。  
別紙プリントをご覧ください、お参りいただきますよう御案内申し上げます。

20日(月) 彼岸の入り

- ・御回向賜りました方々の施主別回向

23日(木) 中日法要

- ・午後1時～ お彼岸回向
- ・午後1時45分～ 法話 副住職
- ・午後2時～ 大人の為のリトミック

コロナで運動不足の身体をリフレッシュ!

音楽に合わせて身体を動かしリフレッシュしましょう

緊急事態宣言が延長の場合は延期させていただきます

- ・午後5時～ 田辺・一休ヶ丘区戦没者慰霊法要

26日(日) 彼岸結願

- ・御回向賜りました方々の施主別回向



3月春彼岸の様子



## 【建築資金の御寄進について】

下記の方から建築資金の御入金を賜りました。鐘楼、観音堂、山門等の第二期工事を控え、まだまだ資金が必要な中、誠に有り難うございました。

現在も毎月継続して分割御寄進いただいている方も多く、厚く御礼申し上げます。

建築資金	100万円	施主	中村ふたみ氏
	100万円	施主	藤村嘉孝氏
	100万円	施主	村中敬氏



## 【院号料御寄進のお知らせ】

中村英明氏より中村利子氏の御逝去に際し、院号(掛物)料の御寄進をいただきました。誠に有り難うございました。厚く御礼申し上げます。

院号(掛物)料 金70万円 為 浄光院明譽慈教利信大姉(故中村利子氏)  
為 智徳院栄譽教導昌英居士(中村英明氏)  
施主 中村英明氏

## 【本堂用エレクトーン御寄進のお知らせ】

故吉山勝平氏の次女様、窪田継氏より本堂でのコンサートや音楽法要で使用するエレクトーンを御寄進いただきました。

最新の機能を備え、持ち運びも可能でプロの演奏家も愛用している楽器です。お彼岸など、様々な行事で有効に活用させていただきます。誠に有り難うございました。



## 【令和4年用月訓カレンダー申し込みのお知らせ】

例年、年末頃にお寺だより等と共にお届けして参りました「浄土宗 月訓カレンダー」ですが、檀信徒の方々から「殆ど活用していない」とか「縦に長すぎて掲示場所に困る」「内容がもう一つ」等の御意見を聞くことが多くある一方で、毎年活用いただいている方もおられる現状に鑑み、令和4年用から個別の申し込み制とさせていただきます。

御希望の方は、同封しております別紙申込書に御記入いただき、FAXでお送りいただくか、お寺にお越しの際お届けいただければと存じます。

なお、浄土宗出版局締切日の関係で、10月15日締め切りとさせていただきます。御協力の程、よろしく御願ひ申し上げます。